

## インターンシップ実習生を受け入れました。

山形森林管理署では、令和4年3月22日(火曜日)～3月25日(金曜日)の間、東北大学工学部の 大学生 (院生) 1名をインターンシップ実習生として受け入れました。

インターンシップは国有林での就業体験を通じて、実習生に国有林野事業及び森林・林業の現状と課題への理解を深めてもらうとともに、将来の就職先を検討する際に、林業分野への就職も視野に入れてもらうことを目的として実施しました。

1日目は林野庁の組織概要、東北森林管理局及び当署の管内概要の説明に加えて、森林経営管理制度や樹木採取権制度等の当署が取り組んでいる民有林支援について講義を行いました。

2日目は高性能林業機械による木材の生産現場の視察、管内市町村の森林経営管理制度の会議に職員と一緒に参加してもらいました。高性能林業機械による伐倒を初めて見た実習生は、その作業スピードに驚いたようで、伐倒作業の動画撮影を行いました。

3日目は山形市の千歳山で実施している松くい虫被害防除対策、蔵王山頂駅周辺のアオモリドマツ虫害被害の現況視察を行いました。蔵王のシンボルである樹氷の形成に欠かすことのできない、アオモリドマツ再生の取組について、実習生から多くの質問がありました。

4日目は3日間の実習を取りまとめて、「国有林への提言」として職員に発表を行いました。若者の新鮮な視点からの提言により、職員一同が国有林職員に期待される職務の重大さをあらためて認識させられました。

実習生からは「林野庁の幅広い業務内容について、その一部を実際に目で見て感じる事が出来た。森林は様々な公益的機能を持っていて、その恩恵を知らず知らずのうちに受けていたことが今回のインターンシップで分かった。」との感想が印象的でした。

当署ではインターンシップを受け入れた経験のある職員が少なく、また、積雪等により視察箇所が限定されてしまうため、カリキュラムづくりに苦労しましたが、インターンシップを通じて、若者に森林・林業の分野に就職するきっかけを提供できるように、インターンシップの質の向上に取り組んでいきます。

